

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

平成27年4月16日

学 校 名		奨 学 金 交 付 年 度	平成	年度
氏 名				
留 学 期 間	平成 26 年 9 月 17 日 ~ 27 年 1 月 25 日			
留 学 先	国 名	台湾	学校名	静宜大学
専 攻	英米文化			

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

関西大学では英米文化を学んでいたもので、語学も英語を重点的に勉強していました。第二外国語もスペイン語だったので、大学の授業において中国語を学ぶ機会はほとんどありませんでした。しかしもともと語学を学ぶのが好きであったことと、留学先で英語の授業も受けられるという点に魅力を感じたことから、静宜大学への留学を決めました。また留学が決まった後、留学先について調べるにあたり、台湾には親日家が多いということを知り、台湾と日本の歴史的關係について改めて調べました。私は在日韓国人であるので、韓国人が日本のことをどのように見ているのかについて人より詳しいです。そのため、多くの韓国人がもつ日本に対する見方の方が当然といえるものだろうと考えていました。台湾と韓国はともに日本に統治されていた時代があるという点で、日本に対して類似した歴史的關係をもっています。よって私にとって、台湾に親日家が多いという事実は驚くべきことであり、深く疑問を感じることもありました。そこで、実際に現地の人と触れ合い、また台湾の歴史・文化を学ぶ授業を受けて、疑問を解決したいと考えていました。

まず語学においては、中国語を一日四時間、週五日で勉強しました。日本では独学のみで実践経験もほとんどありませんでしたが、現在では現地の人と簡単な会話ができる程度まで上達しました。そして、台湾と日本の歴史的關係や台湾の政治・経済について学びました。台湾は日清戦争後に日本へ割譲されましたが、第二次世界大戦の結果再び中国に編入されました。台湾にとっては、自国を統治する国が変わったという状況です。そういうわけで台湾人に親日家が多いのは、あくまで日本と中国の統治を相対的に見た結果であったことがわかりました。したがって、台湾にはなぜ親日家が多いといわれるのか、という疑問も解決することができました。また、英語のスピーキングクラスに参加したことにより、現地学生と英語での会話を練習することができました。日本語による意思疎通ができないため、日本在住時より外国語を話す必要に迫られることで、さらなる語学力の向上を臨むことができたと思います。

授業外でも台湾人は本当に親切で、來台当初から買い物や履修登録の際に助けてくれました。中国語の話せなかった私にも頻繁に話しかけてくれたおかげで、台湾人の友達がたくさんできました。ほかにも、私と同じように台湾へ留学に来た外国人と友達になりました。それにより、

日本人のものとは全く異なった価値観や考え方に触れ、驚くと同時に勉強になりました。そしてそのたび、かえって日本人のことを客観的に見ることができ、自分についても知ることができました。また、留学生には勉強熱心な人が多く、彼らは語学を真剣に学ぼうという意識も高かったので、私も刺激を受け、毎日懸命に勉強を続けることができました。

静宜大学特別留学プログラムは、関西大学の学生に限り中国語を毎日通常二時間のところ、四時間受けられるプログラムだったので、定着と上達が早かったと思います。中国語以外にも、実用的な英語を学ぶ授業を履修することができ、充実した時間を過ごせました。また、留学初期に伝統文化を体験できる行事が用意されており、その後も何度か伝統芸能に触れられる機会がありました。中でも、陶器で有名な町に赴いての陶芸体験が印象に残っています。ペットボトルを使っただけの簡単なものでしたが、楽しみながら伝統文化を勉強することができ、とても良い経験になったと思います。

以上のような経験を経て、台湾について多くのことを学ぶことができました。そして留学したことによる一番の収穫は、外国語を実際に使ってコミュニケーションをとるのに慣れたことです。海外では外国語で話すことが当たり前という状況におかれるため、羞恥心や戸惑いが生まれる前に自ら積極的に話すことができました。そのおかげで、留学前より自身の外国語会話能力に自信ができました。ほかにも、台湾人や中国人の友達とも中国語で会話するため、日常会話でよく使う単語やフレーズを知ることができました。教科書に沿って勉強するだけでは得られないような知識を増やすことができ、ますますの語学力向上につながったと思います。今日世界的に重要視されている中国語を学ぶことは、大学卒業後の就職先の幅を広げることにつながると思います。今回の留学を期に勉強を続け、希望する企業に就職するための助けにできるよう努めるつもりです。また自国を出て生活したことにより、今まで当然だと思っていたことが海外では違っているといったような、まさに異文化を体感することができました。さまざまな国の文化や国民性を垣間見ることができたので、将来の職場で海外に向けての事業を始める際や、海外企業と提携する際などの参考にしようと思います。そのためにも、留學生活で出会った友達と連絡を続け、これからは大学でも中国語を学ぶ授業をとるようにして、将来に備えていきたいと考えています。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。